

# 6010A

Operating Manual  
Genelec 6010A  
Active Loudspeaker

## GENELEC®



オタリテック株式会社



## 製品の概要

Genelec 6010A は極めてコンパクトなバイアンプ2ウェイ・アクティブ・スピーカーで、ホームシアターやプロフェッショナルなマルチメディア用途向けに設計されています。アクティブ・スピーカーとして、本機はドライバーとパワー・アンプ、アクティブ・クロスオーバー・フィルター、保護回路を内蔵しています。MDE™ (Minimum Diffraction Enclosure) スピーカー・エンクロージャーはアルミ・ダイキャスト製で、エッジ回折を低減するように形成されています。先進の Directivity Control Waveguide™ (DCW) と組み合わせることによって、このデザインは音響的に悪条件な環境でも優れた周波数バランスを提供します。必要に応じて6010Aの低音特性は別売の Genelec 5040A サブウーファーを使って補強することができます。

## 設置

電源コード、固定金具一式、信号ケーブル (3.5 mm ジャック ⇄ 2 × RCA および RCA ⇄ RCA)、取扱説明書、セットアップ・ガイドが付属しています。開梱後、6010Aを適切な位置に設置してください。

## マウント設定時の注意

**向きを正しく:** 必ず音響軸が聴取位置の耳の高さを向くように配置しましょう (図1 および図2 参照)。クロスオーバー周波数周辺での音の干渉問題を最小限に抑えることができますので縦置きをお勧めします。

**対称を保つ:** 6010Aが聴取位置から対称かつ等距離に置かれていることを確認しましょう。可能ならば聴取位置が部屋の中心線上に来て、6010Aが中心線から等距離になるようにシステムを設置してください。

**反射を最小にする:** 6010Aに近い机やPCのモニター等の物体からの音反射は音像にカラーレーションやにじみを生じさせることがあります。6010Aをそのような表面から離して設置すれば音反射を最小限に抑えることができます。

## 最小の隙間

6010Aを本棚のような狭い空間内や壁面内に組み込む場合は、アンプの十分な冷却とパスレフ・ポートの動作に注意してください。6010Aの周囲は、背後と上および左右両側に最小2.5 cmの隙間を保って、リスニング・ルームに対して開放されている必要があります。アンプ周りの空間は、熱が逃げて周囲温度が35°Cを越えないように通気が確保されているか、あるいは十分に広い必要があります。

表1: 様々な音環境に対するトーン・コントロールの推奨設定

スピーカー取付位置	DESKTOP CONTROL	BASS TILT
音響反射のない無響室	OFF	OFF
吸音処理された部屋でフロアスタンドに設置	OFF	OFF
音響反射がある部屋でフロアスタンドに設置	OFF	-2 dB
壁の近く	OFF	-6 dB
テーブル置きで反射面がある場合	ON (-4dB @200Hz)	-2 dB
部屋の隅やキャビネット内に設置した場合	OFF	-6 dB

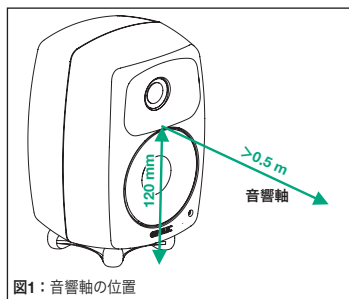


図1：音響軸の位置

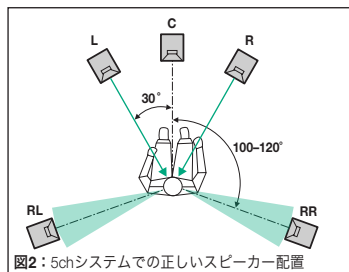


図2：5chシステムでの正しいスピーカー配置

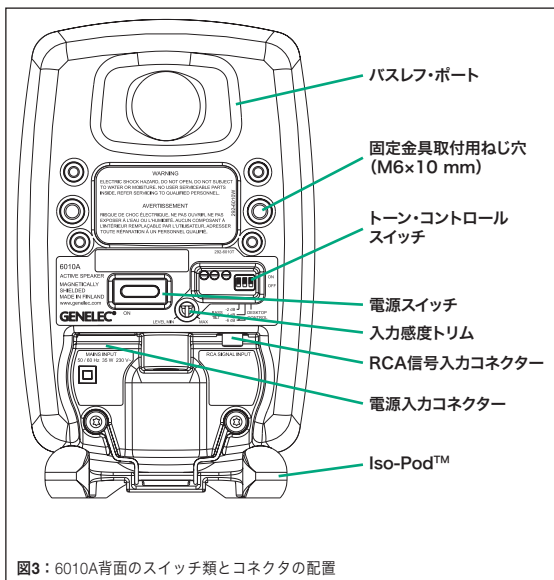


図3：6010A背面のスイッチ類とコネクタの配置

## 接続

付属電源コードを使って6010Aを電源コンセントに接続します。6010Aと信号源の電源が切れていることを確認してください。

6010AはアンバランスのRCA 10 kΩ音声入力コネクタを装備しています。付属の信号ケーブルは3.5 mmジャックかRCAタイプのオーディオ・コネクタを使って6010Aをライン・レベルの信号源に接続できます。信号源には次のようなものがあります：プリアンプ、PCのサウンドカード、携帯型オーディオ・プレーヤー、AVアンプ等の“PRE OUT”コネクタ。

アクティブ・スピーカーとして6010Aはアンプを内蔵していますので、他にアンプを用意する必要はありません。パワー・アンプや一体型アンプやレシーバーのスピーカー出力には6010Aを絶対に接続しないでください。接続が完了したら6010Aの電源を入れることができます。

## 設定スイッチ

6010Aの入力感度は背面のLEVELトリムをねじ回して調節すれば音声信号源の出力に合わせることができます。

6010Aの周波数特性は背面のトーン・コントロール・スイッチ (BASS TILTとDESKTOP CONTROL)を設定することで音響環境に合わせて調整できます。表1は様々な状況での設定例を示し、図4は無響室でのコントロール特性の変化です。平坦な無響室特性になるようにこのスイッチの工場出荷時の設定はすべてOFFです。必ずOFF設定から調整を始めて、設定の組み合わせをシステムチェックに変えながら測定・試聴して最良の周波数バランスをアジャストしてください。

- **BASS TILT (SW1 & SW2)**:低音特性を3段階 (-2 dB (SW1 ON), -4 dB (SW2 ON), -6 dB (両SW ON))で減衰させます。6010Aを壁や床や天井近くに配置する場合に必要です。
- **DESKTOP CONTROL (SW3)**:200 Hz周辺の低音周波数を4 dBだけ減衰させます。リスナーとスピーカーとの間にテーブルなどの水平な表面がある場合にしばしば生じるこの帯域のブーストを補正するための機能です。

## 設置方法の選択肢

6010Aには設置方法がいくつかあります: Iso-Pod™ (Isolation Positioner/Decoupler) を使えばスピーカーを傾けて音響軸調整が可能です。付属の取付金具を使えば2種類の角度で6010Aを壁から吊すことができます。6010A底面には標準マイク・スタンドや他のGenelecアクセサリと互換性のある3/8" UNCねじ穴があり、背面にはOmnimount®やVESAやSanusプラケットに使えるねじ穴もあります。オプションに関して詳しくはアクセサリ・カタログをご覧ください。

## 保守作業

アンプ・ユニット内にはユーザーによる交換が可能な部品はありません。6010Aの保守または修理は資格のあるサービスマンにお任せください。

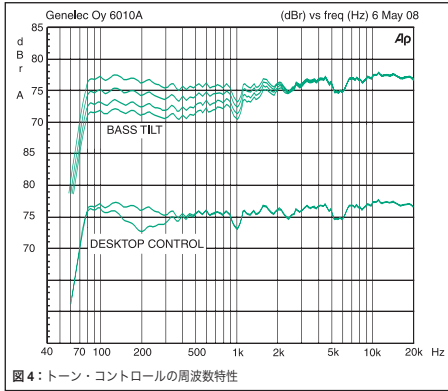


図4：トーン・コントロールの周波数特性

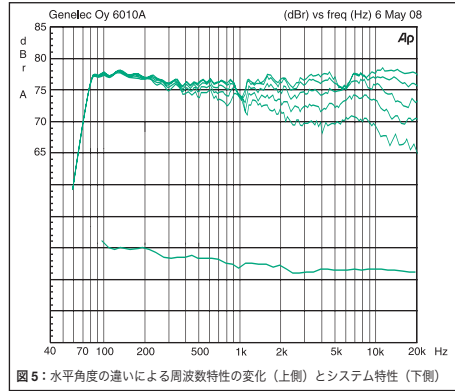


図5：水平角度の違いによる周波数特性の変化（上側）とシステム特性（下側）

## 安全に関する注意事項

6010A は世界的な安全規格に従って設計されていますが、安全な動作を確実にするため、また 6010A を安全な使用条件下に保つためにも以下の注意事項はお守りください：

- 保守や調整は資格のあるサービスマンが行ってください。本機を分解しないでください。
- 本機を水や水分にさらさないでください。液体の入った容器（例えば花瓶）をスピーカーの上や近くに置かないでください。
- 本機は恒久的な聴覚障害を引き起こし得る 85 dB を越える音圧レベルを出すことができます。
- 十分な冷却を保つために本機背面には空気が自由に流れることが必要です。本機周囲の空気の流れを妨げないでください。
- 電源コードをアンプまたは電源コンセントから抜かないかぎりアンプは AC 電源から完全には切り離されません。

## 品質保証

製造者側の責任による故障についてはお買い上げの日から 2 年間の無料修理を保証します。詳しくはオタリテックにお問い合わせください。

## 取り扱い上のご相談と補修部品について

調整や部品の交換が必要になったり技術的な問題が生じたときはお買い上げの販売店または以下の窓口までご連絡ください。

Genelec 日本総代理店  
オタリテック株式会社  
〒167-0052 東京都杉並区南荻窪 4-29-18  
03-3332-3033 (技術部)  
03-3332-3217 (FAX)  
<http://www.otaritec.co.jp>

サービス依頼内容とともに下記の項目もお知らせください。

1. 型番（機種名）：Genelec 6010A
2. 製造番号（シリアル No.）
3. 購入年月日
4. お買い上げの販売店名
5. ご使用の電源電圧
6. 故障の症状（できる限り具体的な）

この取扱説明書は Genelec 社（フィンランド）の許諾を受け、オタリテック株式会社が英語版“6010A Operating Manual (2008年5月)”を翻訳・編集したものです。当社の許可無く複製すること、および取扱説明書本来の目的と異なる用途に使用することを禁止します。

Japanese translation ©2008 Otaritec

## システム・トータル特性

低域カットオフ周波数、-3 dB： $\leq 73$  Hz

高域カットオフ周波数、-3 dB： $\geq 21$  kHz

周波数特性：74 Hz ~ 18 kHz ( $\pm 2.5$  dB)

瞬間最大音圧レベル（100 Hz ~ 3 kHz）：

$\geq 93$  dB SPL (@1 m)

$\geq 99$  dB SPL (@0.5 m)

定格音圧： $\geq 91$  dB SPL (@1 m)

ミュージック・パワー： $\geq 102$  dB (@200 Hz)

残留ノイズ： $\leq 5$  dB (A-WTD)

高調波歪（@1 m, 80 dB SPL）： $< 3\%$  (70 ~ 400 Hz),  $< 0.5\%$  (400 Hz ~)

ドライバー・ユニット：

ウーファー = 76 mm コーン型

ツイーター = 19 mm メタルドーム型

重量：1.4 kg

外形寸法 (WxHxD mm)：121 x 181 x 114 (Iso-Pod 付き高さは 195 mm)

## クロスオーバー・セクション

入力コネクター：RCA メス、10 k $\Omega$  アンバランス（ピン+, スリーブ-）

入力感度：-6 dBu（音量ボリューム MAX 時）

ボリューム調整範囲：-12 dB（最大出力から）

クロスオーバー周波数：3.0 kHz

DESKTOP CONTROL 範囲：0 ~ -4 dB (@200 Hz)

BASS TILT 可変量：0, -2, -4, -6 dB (@100 Hz)

工場出荷時設定：

全トーン・コントロール OFF

入力感度ボリュームは MAX 位置

## パワー・アンプ部特性

低域用パワー・アンプ定格出力：12 W ( $\varnothing \Omega$ )

高域用パワー・アンプ定格出力：12 W ( $\varnothing \Omega$ )

（ドライバー・ユニット保護のため出力制限回路あり）

歪特性： $\leq 0.08\%$  (THD + N)

電源電圧：100 V ( $\pm 10\%$ )

消費電力：5 VA（無信号時）、35 VA（最大出力時）

仕様および外観は予告なく変更になる場合があります。